

## ～今も地域を支える、江戸時代の灌漑用水「大石長野水道」～ 白壁の伝建地区を流れる支流「南新川」の清流を守り継ぐ清掃活動

筑後川流域の干ばつに苦しむ農民を救うため、江戸時代（寛文 4 年・1664）、吉井町の 5 人の庄屋「五庄屋」が中心となり、筑後川に堰を作り灌漑用水「大石長野水道」を構築したことで田畑に水が行き渡るようになり米麦の生産が盛んになった。さらに、支流の水路沿いに作られた水車の動力を利用して、明治以降は製粉・製麺が盛んになり白壁土蔵の町並みが発展、平成 8 年には文化庁から「筑後吉井伝統的建造物群保存地区」の指定を受けた。今も地域を支える大石長野水道の支流「南新川」で、地元関係者が清掃活動を行う。

### ■日時 4 月 21 日（金）午前 9 時から（2 時間程度、小雨決行）

- 場所 農業用水「南新川」の吉井小学校（うきは市吉井町 1088）南側
- 内容 用水を管理する大石堰土地改良区の役職員・理事 20 人ほどが南新川に入り約 500m を清掃
- 問い合わせ 大石堰土地改良区（うきは市吉井町生葉 560-1）Tel.0943-75-2400



▲清掃活動が行われる「南新川」には、3 月 11 日、吉井地区自治協議会が「鯉のぼりの飾り付け」を行い、端午の節句すぎの 5 月 7 日まで展示されている

編集：うきは市総務課広報係（Tel.0943-75-4980）係長・瀧内宏治、重富結人（瀧内：携帯 090-7454-6381）

※FAX を手にとられた方は、「うきは市ホームページ」掲載のカラー版を御覧ください→検索

2017. 4. 17 発表／今も地域を支える、江戸時代の灌漑用水「大石長野水道」～白壁の伝建地区を流れる支流「南新川」の清流を守り継ぐ清掃活動